

# 独自音楽祭来月22日

## 市PTA連 小中生発表の場

新型コロナウイルス禍で音楽コンクールが中止となった小中学校の文化部やクラブに発表の機会を設けようと、独自の音楽祭を計画していた福井市PTA連合会は、「ブレイクスルー音楽祭2020」と銘打ち8月22日に県立音楽堂大ホールで開くと決めた。音楽堂が定めた新型コロナウイルス対策指針を順守し、厚生労働省が運用するスマートフォン向けの「接触確認アプリ」の事前インストールを観客に求めるなどコロナ対策を徹底する。

(小林真也)

対象は、市内の吹奏楽や合唱など音楽系の部活動や学校付属のグループで、出演者は上級2学年までに限る。発表は1団体10分程度とし、課題曲は設けず審査も行わない。ステージ上の出演者の間隔を1メートル以上確保するため、1団体の出演者数の上限は58人とする予定。参加団体が多数となった場合は入れ替え制とする。

観客は出演者の家族ら関係者のみとし、2団体ほどの発表ごとに入れ替える。県内で感染が拡大した場合は県の指針に沿って中止する。

参加団体の児童生徒らに対し、新型コロナウイルスの当事者らに対する誹謗中傷などの人権問題について、福井弁護士会法教育委員長でもある後藤正邦・市P連会長らが事前授業を行う。後藤会長は「子どもたちにとって音楽祭への参加が自分の殻を破りさらに成長する機会となれば」と話している。

17日夜の常任理事会で実施要領と募集要項を決め、市P連加盟校に送った。